

「ほめる」と「励ます」

こうちよう　ながの　ひでき
校長　長野　秀樹

なが　いちがつ　き　お
長い一学期が終わりました。子どもたちは、よくがんばりました。どの子ども、成長
の跡が見られます。今日は、「通知表」を持って帰ります。

わたし　しょうがっこう　がつきゆう　たん　にん　ねんかん　つと　ねんせい　ねんせい　たん　にん
私は小学校の学級担任を15年間務めました。1年生から6年生まで、担任と
して受け持った子どもの数は400人以上になります。

その経験を通して、子どもを伸ばすには、「ほめる」のがとても大切だということ
が分かりました。子どものがんばりやよさを進んで見つけるようにし、「がんばった
ね。」「さすが。」「すごい。」などの声かけをしていました。

ここで、「ほめる」ことによってもたらされる三つの効果を紹介します。

一つ目は、子どもは何か一つのことによって「ほめられる」と、自分に自信がきます。
つまり、自己肯定感が持てるようになります。すると、他のことでもできそうな気が
してきます。運動でも勉強でも、その他の何でも、「できるはずだ。やってみよう。」「
チャレンジしてみよう。」という意欲が出てきます。

二つ目は、子どもは、「ほめてくれる」相手に対して、必ずよい感情を持ちます。

「お母さんは、ぼくのことを認めてくれている。」「お父さんは、私のことをよく思
ってくれている。」と思えるようになります。親の愛情を実感できている子は、ます
ますがんばるエネルギーがわいてきます。自分を愛してくれている親に対して素直な
気持ちになることができます。

三つ目は、子どもは「ほめられて」、親の愛情を実感すると、心がぽかぽかして
きて温かい気持ちになります。自分の心が満たされているので、兄弟や友達にも温
かい気持ちで優しく親切に接することができるようになります。

ある日、テストで90点取った子どもが飛ぶように帰ってきたとします。その子ど
もの喜びの声を聞いたとき、ご家庭では、どのように声をかけられるのでしょうか。

「わあ、すごい。よくやったね。」多くの方は、おそらくこのように「ほめる」の
ではないかと思われます。しかし、もしかしたら、そのあとに次のような言葉も続けて
しまうのではないのでしょうか。「じゃあ、今度は100点をめざしてがんばろうね！」

このとき、子どもは、最初に感じた「ほめられた」という気持ちが一気に半減し、
がんばれと「励まされた」という気持ちに変容してしまうのです。ですから、こうい
った声かけは、上手に演出しなくてはなりません。「ほめる」ときは、そのあとに
つい続けてしまいがちな「励ましの言葉」をぐっと我慢して、思いっきりほめてあげ
ることが大切だと考えます。

もちろん、むやみに「ほめればいい」というわけではなく、「ほめる内容とタイミ
ング」が重要です。子どもが何らかの努力をしたとき、あるいは子どもに何らかの
進歩や成長が見られたとき、そして、人間としてすばらしい行為をしたとき。こん
なときは、余計な「励まし」の一言は付けずに、思いっきり「ほめて」あげたいもの
です。